

日々の務めにスパイスを加えて

やまもとひろあき
ますだ 益田市市長(島根県) **山本浩章**
Hiroaki Yamamoto



広報誌に市長コラム掲載

益田市では『広報ますだ』という広報誌を毎月発行しています。就任間もないころの平成24年10月号(同年9月20日頃発行)からずっと「市長室からこんにちは」というタイトルで800字ほどの文を誌面に綴っています。施策の紹介から、季節の話題、まったくプライベートなことまで題材は多岐にわたります。これまで(平成30年6月号まで)に69回を重ねました。この欄をお借りしてほんの一部を抜粋しご紹介します。

「春には花見があるように、秋にも旧暦9月9日の重陽の節句に菊見酒を楽しむ



「広報ますだ」に「市長コラム」を掲載中

風習がありました。今ではあまり馴染みがありませんが、花札で菊の十点札に盃が描かれているところに、私などはその名残を見てうれしくなります。余談ながら、この札は桜もしくは芒の20点札と揃えばそれぞれ「花見酒」「月見酒」の役が出来るだけでなく、カス札として算入することも可能で、誠に使い勝手のよい1枚となっています。」(平成26年10月)

「(聖徳太子が)一度に十人の話を聴き分けたという伝説もよく知られています。超人的な理解力と記憶力をうかがわせる逸話ですが、私としては、意思決定に際し多くの人の意見に耳を傾けたこと、対立する意見の集約と錯綜(さくそう)する利害の調整に心を砕いたことを物語る一種の比喩(ひゆ)と解釈したいと思っています。」(平成27年1月)

「昔から琵琶湖のアユは外に出て大きくなる」と言われます。琵琶湖にいと体長がせいぜい10cmのアユが、他県の川に放流されると2〜3倍に成長することも珍しくないことを指し、しばしば、近江商人などこの地(滋賀県)の出身者が地元(滋賀県)に留まるよりむしろ京阪や関東、さらには海外に進出して活躍したことのたとえとされました。20年前に益田に向けて郷里を発とうとする、当時まだ20代だった私への饞(はなむけ)に、この言葉を掛けて励まして下さった方の思いやりは今も忘れることができません。」(平成30年6月号)

読者から「面白い」「毎月楽しみにしている」など好意的な評価をいただくことにも昇る心地になるのは我ながら単純なものです。パブリックなスペースに個人の好きな思いを書かせていただき、幾人かには読まれていることを幸甚に思います。

自称「本の虫」「クラシック愛好家」

子どものころから大の読書好きです。特に、歴史評論、ビジネス書、時代小説などをよく読みます。現在はまとまった余暇を取りにくいので、移動時間などを有効に使い、読書の時間を確保するようにしています。

「孤島に1冊だけ本を持っていくとしたら?」という問いがあります。私が選ぶとしたら、司馬遼太郎の『翔ぶが如く』です。(文字通り1冊だけとなれば、大久保利通の北京談判を詳述している文庫版の第5巻です)

クラシック音楽も好きです。自宅できつろぐひととき、あるいは集中力を高めたい局面などに聴きます。こちらにも1曲だけ選べと言われたら、迷いに迷ってベートーヴェンの交響曲第3番にします。テンシユテット指揮のものが一番のお気に入りです。

職員との意見交換会

市長として初めて年度末を迎えようとしていた平成25年3月、翌年度の人事異動案を示されたとき、愕然(ごうぜん)としました。ずらり

と並んだ名前を見て顔が思い浮かばない職員が意外なほど多かったのです。庁内人事の権限を持つ者であるのに、それぞれの職員の性格、問題意識、資質などを把握していないようでは話にならないとあらためて感じました。それで始めたのが、職員との意見交換会です。

1巡目は、すべての正規職員と15分ずつ面談しました。私からは市の職員として心掛けてほしいこと、例えば（ありきたりですが）、市民の皆さまへの迅速、丁寧な対応などをお願いするとともに、職員からは、現在の職務の内容と課題について聴き取りました。全職員の担当業務を聞き出す



職員との意見交換会（右が筆者）

ことで、市役所が実に広範な仕事を担っていることを痛感しました。また、職員の個性が多彩であることにも驚きました。

2巡目は、互いに年代や職階に近い課長補佐級以下の職員6人ずつとグループで30分ずつ懇談しました。課長級以上の管理職については内部協議などできれば言葉をお互いので割愛しました。ここでもあらためて職員に心掛けてほしいことを伝え、個々の職員からは日々の思いや仕事上の課題などを話してもらいました。

ちょうど平成29年度当初からとなった3巡目は2種類の意見交換会を実施しました。一つは、今後市の中枢を担うことが期待される課長補佐級職員53名との個別の意見交換です。

もう一つの意見交換会は、趣向を大きく変え、年間計6回の読書会という形式で行うこととしました。参加者募集にあたりあえてハードルの高い課題の提出を課したので、果たして希望者がいるだろうかと心配もしていたのですが、6名が名乗り出てくれました。私の方からは個別に声掛けしていませんので完全な自発的参加です。

私が選んだ課題図書（細谷功著『地頭力を鍛える』や塩野七生の『ローマ人の物語』など）について、あらかじめ要約と（内容および表現に関する）

気付き等のレポートを作成してもらった上で互いの読後感を共有しました。限定されたメンバーとの間だけとはいえ、これまでにはない深みのある意見交換を行うことができました。今後も、さまざまに工夫しながら職員との意見交換を継続していくつもりです。

これからも、公務にはもちろん全力を傾けつつ、純然たる公務ではない部分にも楽しさとこだわりをもって取り組んでいきたいと思えます。



職員たちとの「読書会」